



公益財団法人

石川県

成人病予防センター  
だより

[第47号]

いしかわ成人病予防センターだより

第47号 [2025年]

発行日 令和7年(2025年)3月発行

金沢市鞍月東2丁目6番地

電話 (076) 237-6262

FAX (076) 238-9207

郵便番号920-8201

E-mail smile@kenshin-ishikawa.or.jp

URL https://www.kenshin-ishikawa.or.jp/



いろは橋:いろは橋は輪島市の中心部にあり、平成27年の連続テレビ小説「まれ」に度々登場しました。能登半島地震による大規模な火災が発生した「朝市通り」と隣接しています。

**特集** 災害と向き合って

輪島市からのレポート  
災害後の1年を振り返って





輪島市  
わじまし  
WAJIMA CITY

# わが町のがん検診

輪島市

子育て健康課

萬亀美穂



## ○市の概要

能登半島の北西にある輪島市は、日本海と緑の山々による豊かな自然に囲まれた地域です。中世に曹洞宗の本山「總持寺」が開かれ、北前船の世紀には「親の湊」と呼ばれ海上交通の要衝として栄えるとともに、江戸中期以降は漆器業（輪島塗）が盛んになりました。また、「能登の里山里海」は、日本列島のほぼ中央に位置する石川県の北部、日本海に突き出た能登半島の4市5町に広がっています。2011年6月、新潟県佐渡市の「トキと共生する佐渡の里山」とともに、国連食糧農業機関（FAO）により、日本で初めて世界農業遺産に認定されました。

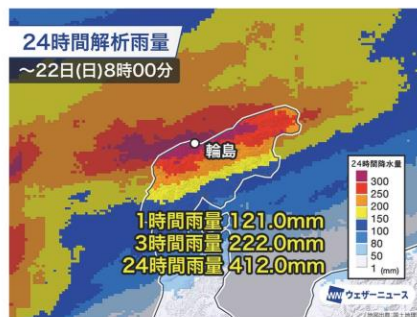
また、東は珠洲市、能登町に、南は穴水町、志賀町に接しており、市の中心部から県都金沢へは約120km、車で約2時間を要する距離にあります。人口は震災前23,575人（令和5年4月1日時点）であったのが、震災後には22,079人（令和6年4月1日時点）高齡化率は50・0%となりました。

## ○能登半島地震と令和6年（2024年）奥能登豪雨

令和6年1月1日16時10分能登半島地震 震度7 マグニチュード7.6の未曾有の地震が起こりました。死者181名、行方不明者2名（令和7年1月9日時点、災害関連死80名含む）という尊い命が失われ、全壊2,301件、半壊3,938件という大きな被害を受けました。地震の影響により、例年6月より実施していたがん検診や特定健診が、日程や会場を再検討し9月から実施していたところでした。

そのような中、令和6年9月20日の深夜から雨が降り出し、21日の8時頃から急激に雨が勢いを増しまし

た。11時頃にかけての3時間に雨が集中し、1時間雨量は最大121・0mm、3時間雨量は最大222・0mmを記録しました。輪島市の9月1か月の平年雨量が214・5mmですので、わずか3時間でこれを上回りました。この豪雨により、死者11名、全壊92件、半壊499件、床上浸水37件、床下浸水381件と地震後に建築した仮設住宅にも大きな被害があり、現在も100人以上の方が避難生活を過ごして



ておられます。

豪雨当日の9月21日は輪島消防署を会場とし、がん検診と特定健診を実施していました。急激な大雨により駐車場があつという間に水に浸かり、交差点が水没により通行止めとなりました。石川県成人病予防センターや石川県予防医学協会の職員の方たちも、道路の封鎖により帰路を絶たれてしまいました。その後、輪島消防署を緊急避難所として立ち上げることになりました。市内至る所に避難所が開所し、その後のがん検診や特定健診は中止せざるをえませんでした。

今後の検診を実施するかどうか非常に迷いましたが、石川県成人病予防センターや石川県予防医



《検診の様子（輪島消防署）》

学協会の方々のご協力により、12月に日程と会場を調整し実施することに決めました。秋の検診に申し込まれていた市民の方に一人一人に電話をかけて日程の調整をしたり、どのような状況で中止を決めるかなど事前に決めました。水害の影響で予定していた会場が使用できなくなり、遠方の住民への送迎バスも準備しました。

当日は、多くの市民の方が検診会場に足を運び、予約も満員となりました。市民の方からは、「大変やっただけど検診受けられてあつさりした。」というお言葉をいただきました。今年度のがん検診受診率は過去にも経験のないくらい低い受診率となりましたが、がん検診を実施することができ本当に良かったと思います。

まだまだ、次年度に向けて課題は多くあります。検診会場の確保、道路状況等のインフラの復旧などを踏まえて、検診の実施体制を整えていきたいと考えています。

最後に他市町の皆様には、市外に避難している当市の市民のがん検診や特定健診を快く受け入れていただき感謝申し上げます。石川県成人病予防センターや石川県予防医学協会の皆様にも大変ご迷惑やご負担をおかけしますが、令和7年度も今年度同様、今後ともご協力よろしくお願いたします。

\*能登の方言で「ほつとする」「安心する」という意味



# 震災後の1年を振り返って

検診サービス部長 橋本哲夫

## 【令和6年度の健診準備について】

奥能登の4市町である輪島市、珠洲市、穴水町、能登町の住民健診につきまして、これまで6月から11月にかけて実施してきましたが、市町と協議の結果、6月から8月にかけての健診は実施せず、その分の日程を9月から11月に変更して実施することになりました。当センターでは、稼働できる検診車の台数に限りがあることから、例年9月から11月にかけて健診の予定が入っていた県内の事業所の方々に、6月から8月に日程を変更することができないかとのご協力をお願いし、空けていただいたところに奥能登4市町の健診日程を追加するように、調整を進めました。

その結果、奥能登地区の4市町の住民健診については、令和5年度に実施した健診日数の、概ね3分の2程度の日数を確保することができました。このほか、奥能登地域への道路状況の確認作業を行いました。3月上旬に検診補助車（バン）にて、4月中旬には中型の検診車にて、5月下旬には大型の検診車にて、また、のと里山海道の全区間で対面通行が再開された7月17日には、検診補助車（バン）にて通行してみました。その結果、のと里山海道は、徳田大津インターから穴水インターまでの区間は、段差が激しく振動が大きいことがわかりました。

レントゲン機器など精密な機材を搭載した検診車は、振動に弱いため、徳田大津インター以北は、一般道を走行することにしました。

## 【避難先の健診について】

また、今までになかった取り組みとして、石川県が主導する形で奥能登4市町と七尾市、志賀町の住民の方が、避難先の市町で集団健診を受診できるようにする制度ができました。避難先市町によって若干内容は異なりますが、がん検診と特定健診を受診することができる制度となります。

石川県との協議は、がん検診については5月中旬から、特定健診については6月下旬から開始し、奥能登4市町の健診開始と同じく9月からスタートすることができました。

## 【令和7年の健診に向けて】

令和6年度の受診人数については、奥能登の現地においても、避難先においても、9月は例年より少なかったのですが、10月以降の現地での健診については、例年と変わらない程度まで回復しました。

来年度の健診については、震災前のように、6月から11月にかけて健診日程を組むことになり、少しずつ、状況が戻りつつあると感じています。

# 輪島市の集団検診を担当して

業務課書記 熊田有希

元日に発生した能登半島地震により、安否確認から始まった2024年。報道により被害状況が明らかになってくるにつれ、奥能登の健診はどうなるのか、今年度は無理じゃないか？といった不安や、『こんな時こそ健康状態が気になる』との声が多くありました。

例年、6月を皮切りに始まる住民健診ですが、奥能登の4市町は、3か月後ろ倒しとなる9月からのスタートになり、それに伴って日程の再調整が行われました。

健診で利用していた会場は避難所となっており、代替となった会場の視察や、会場内の動線・レイアウトも一から練り直して9月の健診に備えました。

9月に入り住民健診が予定通り開始。震災直後に比べ、道路状況も少しずつではありますが改善されていき、順調かと思えた矢先の9月21日には土砂災害が発生しました。

この土砂災害で特に被害の大きかった輪島市は10月に計画していた4日間の日程が中止となったため、12月に3日間の日程を代替として設けることで受診者の受け皿を確保し、12月8日には最終日を終え、無事令和6年度の全日程を終了することができました。

輪島市門前地区では、門前高校の校舎の基礎部分に被害が見つかったため、



従来健診会場として利用していた門前公民館を代替校舎としていることから、令和7年度の門前地区での健診には、新たな会場の選定・視察等が必要となります。他にもこのようなことが起こるかもしれないので気が抜けないところです。

まだまだ復旧・復興も半ばというのに、忘れた頃に豪雨災害が起こるといった無慈悲な状況の中、奥能登の皆さんは前を向いて生活しておられます。

移動時間等、以前よりも厳しい状況下ではありますが、現地に出向き健診業務を行うことは、我々にしかできない支援であることを肝に銘じ、今後も業務に取り組みたいと思います。



## 結核予防会総裁の秋篠宮皇嗣妃紀子殿下のお成り

結核予防会の石川県支部である当センターに、同会総裁を務められる秋篠宮皇嗣妃紀子殿下が4月26日に訪問され、現地での健康に関する支援に向けた取り組みなどについてご説明しました。また、職員の日頃の活動へのあたたかい感謝のお言葉をいただきました。



9月14日には、翌日の珠洲市健康増進センターへの訪問に備え、能登地区の健診会場や受診者のご様子、当日に使用する検診車の説明を熱心にお聞きになりました。



9月15日には、珠洲市健康増進センターでの住民健診の様子を見て回られました。会場では検診車が到着すると、椅子を下ろすなどのお手伝いをなされたり、健診に来られた方にお声かけをなされるなど、被災者の健康を気遣われていました。

また、珠洲市結核予防婦人会の皆さんとご懇談され、地震発生時の状況や、現在の生活などをお聞きになり、おねぎらいのお言葉をおかけになりました。







皆さん、よろしくお願ひします!

# 新|人|紹|介|



代表理事 角谷 眞澄

令和6年3月開催の公益財団法人石川県成人病予防センター第1回理事会にて代表理事(理事長)に選任され、当センター理事の職務権限規程に従い、理事会の開催・主宰に加え、事業計画や収支を筆頭に様々な事項について決裁を行っています。

私は放射線科医で、専門は放射線診断学です。輪島市門前町の小さな漁村の生まれで、内科医として地元で開業するつもりで医学の道に進みました。ところが、大学4年生のときに受けた健診の胸部X線撮影で肺に異常を指摘されました。肺結核でした。早期に発見され治療も奏功したおかげで留年を免れましたが、この経験からX線写真が映し出す陰影から疾患を診断する放射線医学に魅了されてしまいました。金沢大学を卒業した1977年に金沢大学医学部放射線医学教室に入局し、全身のX線撮影にとどまらず、超音波検査、CT、MRIと日進月歩する画像検査から生み出される画像所見を解析し、疾患の病理病態を推察する臨床研究に没頭しました。2000年からの17年間は信州大学に教授として在籍し、さらに退官後の6年間は松本市にある丸の内病院で放射線診断専門医として勤務し、足掛け25年間にわたり長野県の放射線医学の発展と放射線診療の普及に努めました。

長年の単身赴任でしたので令和5年度を区切りとして金沢に戻り、休息を入れながら放射線診療に携わることができればと漠然と思案していました。令和6年の元旦に発災

した能登半島地震は、帰宅していた金沢で被災しました。故郷の漁村は壊滅状態で、松本からの引越し準備と能登の実家の後片付けで混乱中の2月、急な打診ではありましたが、当センター理事長の役職をお引き受けすることになりました。

当センターでは、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、事務職員、検診車運転手などの、常勤ならびに非常勤の総計約200人の職員がチームワークを組んで勤務しています。センター内で検診を受けていただく場合もありますが、大半は受診者の皆さんのお住まいの近くまで検診車で訪問し、循環器病健診に加え、胃がん検診、大腸がん検診、肺がん・肺結核検診、子宮頸がん検診、ならびに乳がん検診を行っています。得られたデータはセンター内外で結果を分析し、精密検査の必要性の有無を受診者に郵送にてお届けしています。医師としての私の業務は、胸部X線写真と乳房X線写真の読影です。結核予防会石川県支部でもあるセンター内で読影をしながら、放射線科医をめざした原点に回帰した思いがしています。

野球やサッカーが好きで社会人チームに所属してプレーした経験がありますが、スポーツと同様、職場もチームワークがすべてです。職員の皆さんと一丸となって、県民の健康維持と福祉の増進に寄与すべく尽力したいと考えています。当センターを支えていただいている関係者の皆様ならびに県民の皆様には、今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。



松井 一展 (まつい かずのぶ)

職種: 業務課 主任

採用年月日: 令和6年9月

出身地: 福井県坂井市

趣味: 旅行、ドライブ

特技: ミニDIY

好きな食べ物: からあげ、ピザ

メッセージ: 昨年9月よりお世話になっており、業務課に配属され、主に検診車の運転や受付等の業務に携わっております。

これまでの私は健康診断を受ける立場で「決まり

事だから…」何気なく受けておりました。

しかしながら、その日々の何気ない日常生活は健康であるからこそ成り立っているんだなと、また、その確かめの日でもあり、早期発見の機会でもあると実感しております。

前職は非関連な職種でしたが、これまでの業務経験を活かしつつ、一層取り組んでいきたいと思っております。

全く未熟ではございますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新しい胸部検診車が導入されました

### 一般社団法人宝くじ協会の助成金で胸部検診車を整備しました

5月27日に、結核予防会本部を通じ、一般社団法人宝くじ協会の公益法人助成事業からの助成を受けて制作した、胸部検診車(宝くじ号)の引き渡しを受けました。

車体を小型化し、道路の狭い地域への巡回効率を高めるとともに、新型コロナウイルス感染症や、季節性インフルエンザなどの感染症予防対策として、空間除菌消臭装置を装備し、室内には光触媒塗装を行うことで、除菌機能を持たせるなど、安全な健診を提供できるように配慮しました。





# かなざわピンクリボンプロジェクト

## メッセージマジック

済生会金沢病院の移転30周年イベントとコラボしました。



昨年度、石川県立中央病院で開催されたメッセージマジックですが、今年度は11月4日(月・祝)に石川県済生会金沢病院で開催されました。石川県済生会金沢病院は、金沢市赤土町に移転し30周年ということで、近隣や院内のグループによる、太鼓や合唱など、たくさん催しがあったほか、各種ブースの出展など、盛大なイベントとなりました。

## メッセージウォーク

2年ぶりの開催です。



昨年度は、荒天により中止となったメッセージウォークですが、今年度は11月3日(日)に、好天に恵まれての開催となりました。

犀川緑地公園をスタートし、堅町商店街から金沢21世紀美術館を経由しスタート地点に戻る約5キロのコースを、2時間かけて歩きました。

## メッセージツリー

2つの病院に設置させていただきました。

これまで、しいの木迎賓館や金沢港クルーズターミナルに設置してきたメッセージツリーですが、今年度は5月13日から6月28日にかけて石川県済生会金沢病院で、7月4日から8月30日にかけて金沢医科大学病院での設置となりました。今回は、能登半島地震からの復興に向けてのメッセージもたくさんいただきました。



## 編集後記

能登半島地震から1年がたち、困難の多かった能登地区の検診も、無事終えることができました。

能登地区の検診に当たっては、各市町では担当者の皆さんの多大な努力があり、私たちもできる限りの協力をさせていただきました。

今回の特集記事では、被災地での健診実施について、令和6年1月の震災に加え、9月の土砂災害で大きな被害を受けた輪島市からの報告と、被災地の健診に当たって当センターが実施してきた各種対応を掲載させていただきました。

このような災害は一度と起きて欲しくはないものですが、これまでの経験を基に、再び大きな災害があったときの対策について準備を進めているところです。

4月と9月には結核予防会総裁の秋篠宮皇嗣妃殿下のお成りがあり、当センター職員をはじめ、被災地の方々におやさしくお声をいただきました。

また、全国の結核予防会支部や結核予防婦人会からは、被災地の復興支援のために多額の義援金をいただき、復興支援に有効に役立てるため石川県にお渡しました。

このように、全国からのたくさんの方の支援をいただく中、能登地区の令和7年度の健診計画では、震災前とほぼ同じ日数を計画することになりました。

実施においては、困難も多いかと思いますが、市町の皆さんと協力して、県民の健康増進に務めていきたいと思います。